

第 10 回 大阪府河川周辺地域の環境保全等審議会 議事要旨

開催日時	平成 30 年 3 月 22 日（木） 15:30～17:30
開催場所	大阪府安威川ダム建設事務所 5階 大会議室
出席者	岡田委員、片野委員、竹林委員、田中委員、鶴田委員、平井委員、布野委員、 ○養父会長 計 8 名（欠席：神田委員、高柳委員） （○：会長、敬称略、五十音順）
概 要	<p>安威川ダム建設事業における、事業評価、平成 29 年度調査結果と環境保全対策の取組み、環境保全対策の評価方針について審議した。</p> <p>【資料 1】「安威川ダム建設事業の事業評価について」</p> <p>・資料 1 についての委員の主な発言は以下のとおり。</p> <p>田中委員 事業期間が延伸することによりプラス面とマイナス面がある。試験湛水時に周辺の開発事業が完了することにより、濁水に関する懸念等については良い方向に働く。</p> <p>養父委員長 フラッシュ放流については、下流河川の利用に対する影響等もふまえ、良い面と悪い面の両方を整理して対応されたい。</p> <p>【資料 2】「平成 29 年度調査結果と環境保全対策の取組みについて」</p> <p>・資料 2 についての委員の主な発言は以下のとおり。</p> <p>竹林委員 既存のため池の現況の調査が必要である。</p> <p>平井委員 ビオトープでの確認種を見る限りは、ビオトープとして機能しているという印象である。</p> <p>田中委員 水質に関しては、低水時の調査結果から過去からの変化は読み取ることができるが、それだけで工事の影響も読み取れるかは疑問である。高水時の調査を実施したが有効なデータが取得できていないというのであれば、その情報を提示する必要がある。 調査結果を分析・評価し、それをフィードバックし調査を実施していく必要がある。</p> <p>鶴田委員 アジメドジョウは一部では増えているが、その原因を検討するための様々なデータが必要である。理由が分かれば保全対策に活用できる。</p> <p>片野委員 底生動物については、濁水に弱い種が確認されていない。これらの種の消長を整理すれば、ダムによる影響なのか、元々生息していなかったのかという分析をすることができる資料となる。</p>

養父委員長

確認種の生態から考えて、そぐわない環境での確認結果がある。結果の精査が必要である。

平井委員

オオムラサキが今年度は確認されなかったことについて、成虫が利用するクヌギ等の周辺の環境が変化している可能性がある。幼虫の調査だけではなく、成虫の生息環境の状況も把握すべきである。

岡田委員

オオサンショウウオについては、ダムができればそれより上流での行き来しかできなくなる。安威川の水系全体の観点で、関係機関と連携し、オオサンショウウオの生息を支える資源の確保や再生産が可能となるような保全対策・調査を実施して頂きたい。

布野委員

オオタカについては、事業地から距離を隔てた箇所に代替巣を確保し、事業としての対策を講ずるのが良い。

サシバ・ハチクマについては、巣の位置が毎年変わるので、事業地の近傍に営巣した場合に対応できるような体制にしておく必要がある。

フクロウについては、巣箱が機能していると考えられるので、試験湛水時には距離を隔てるように位置を変えて誘導することが良いと考えられる。また、工事実施前のフクロウの推定つがい数等、既往の調査結果を踏まえ、巣箱の数等を検討すること。

カワセミ、カワガラスのモニタリングについては、特に問題は無い。湛水による環境の変化を踏まえ、必要に応じて、対策を検討すればよい。

【資料3】「環境保全対策の評価方針について」

- ・資料3についての委員の主な発言は以下のとおり。

竹林委員

法面の緑化については、資料には3年をメドにするとあるが、もっと長いスパン(数年レベル)で監視をしていく必要がある。

付け替え大岩川については、三面張りであるが、砂礫が動いて川らしい川となる。「動的な川づくり」に努められたい。

鶴田委員

環境整備では、目標設定が必要。整備箇所の上流や安威川水系内の同規模の支川の生物相等を参考に、目標設定することが必要である。

田中委員

様々な取り組みについては、将来にわたってスピード感をもって、取得した情報をフィードバックしながら推進しなければならない。スケジュールを明確に提示して頂きたい。

片野委員

多自然河川を創造していくにあたっては、例えば、元々河川内にあった河床材料を用

いるといったことを検討されたい。

環境の評価方法としては、例えば、ゲンジボタルの餌のカワニナのように分かりやすく評価しやすい種や、元々生息していた種等、着目すべき対象を整理して頂きたい。

田中委員

濁水抑制については、上流や隣接の民間事業が、ダム供用時にどれだけインパクトを与えるのか、対策によってそれがどれだけ低減されるのかといった検討が必要である。

養父委員長

モニタリング結果を分析して、民間事業者にどういったお願いをすべきかを検討する必要がある。

平井委員

注目種の個別対策として、オオムラサキについての対策を記載して頂きたい。(資料3-6)

養父委員長

他事例を研究し、安威川にどの程度適用できそうか検討する必要がある。安威川水系全体を視野に入れ、他事例を参考にして、情報をフィードバックしながら取り組まれたい。

以 上